

《演奏会報告》

(令和元年度)

2019年度 研究活動報告

池山 奈都子

◆2019年3月3日（日）

第13回白子高校創作ミュージカル

「大黒屋光太夫」

主催：三重県白子高等学校

共催：名古屋音楽大学

会場：鈴鹿市民会館

指揮：桐生 智晃

歌唱指導：松下 雅人（名古屋音楽大学教授）

演出指導：池山 奈都子

出演者：白子高等学校文化教養（吹奏楽）コース13期生

安江 沙羅（名古屋音楽大学 舞踊・演劇・ミュージカルコース4年生）

中村 るな（名古屋音楽大学 声楽コース3年生）

演奏：白子高等学校吹奏楽部

◆2019年3月16日（土）

女声合唱団 アンサンブル麗 25周年コンサート

主催：アンサンブル麗

会場：瑞穂文化小劇場

指揮：宇佐美 衆二

演出：池山 奈都子

ピアノ：柴田 理恵 ヴァイオリン：平光 真彌

出演：アンサンブル麗団員

ダンサー：榎原 文子（名古屋音楽大学 舞踊・演劇・ミュージカルコース3年生）

恵土 莉鈴（名古屋音楽大学 舞踊・演劇・ミュージカルコース2年生）

◎第3ステージで合唱曲を本大学の学生に踊ってもらうように考えた構成で、合唱団のコンサートではあまりないコラボレーションは好評でした。演出の意図

やイメージを伝え、振付けも学生自身で考えてもらい、学生に良い経験となったコンサートでした。

◆2019年3月21日（木）

2019 聖霊中学高等学校聖歌隊 卒業コンサート
「オズの魔法使い」

主催：聖霊中学高等学校 聖歌隊
会場：名古屋市青少年文化センター（アートピアホール）
演出・演技指導：池山 奈都子
出演者：聖霊中学高等学校 聖歌隊（高校3年生）他

◎2017年に関わらせていただいていた事もあってか、聖歌隊高校3年生の生徒さんから直接、指導していただきたいとの依頼があり、協力させていただいたコンサートでした。伴奏で電子オルガンを演奏してくれた生徒さんが2019年度より本大学で学ぶ事を知り、嬉しく思いました。

◆2019年4月13日（日）

児童合唱団かかみのキッズ
スプリングコンサート2019

主催：児童合唱団かかみのキッズ
会場：関市民会館 大ホール
指揮：深尾 明美（名古屋音楽大学卒業生）
構成・演出：池山 奈都子
ピアノ：佐藤 季美（名古屋音楽大学卒業生）
パーカッション：松尾 志穂子（名古屋音楽大学卒業生）
出演者：児童合唱団かかみのキッズ団員

◆2019年7月19日（金）

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」（日本語上演）

主催：ひろしまオペラ・音楽推進委員会、広島市、
（公財）広島市文化財団アステールプラザ

会場：JMS アステールプラザ 中ホール

構成・演出：池山 奈都子

訳詞：池山 奈都子

出演者：大野内 愛、小林 良子、他

・2019年8月17日（土）

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

主催：（公財）広島市文化財団

会場：佐伯区民センターホール

・2019年8月18日（日）

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

主催：（公財）広島市文化財団

会場：安佐北区民センターホール

・2019年8月20日（火）

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

主催：（公財）広島市文化財団

会場：岩国市・シンフォニア岩国

◎3年間毎年開催されていた「夏休みオペラ体験教室」の新たな展開として“子供達に本物の芸術を”という趣旨で子供達にオペラを鑑賞する機会を作り事になり、広島市内、広島市近郊の比較的コンパクトなホールで巡回する企画で、来年以降も巡回公演は続けられる予定です。

◆2019年8月20日（火）～ 21日（水）

夏休みオペラ体験教室（小学4年～6年生対象）

主催：ひろしまオペラ・音楽推進委員会

会場：JMS アステールプラザ 中ホール

講師：池山 奈都子

◎3年続けた「オペラ体験教室」がひとつの形として、巡回公演のオペラにつながった事は大変嬉しくもあり、自信にもなりました。

同じ事の繰り返しではありますが、参加する子供達は毎年同じではありません。子供達の感性に触れる良い機会なので丁寧に、大切な時間として継続しなければ

ばと思います。子供達に音楽の素晴らしさや舞台の楽しさを経験してもらう事が、これから先の音楽界や舞台の世界の発展、進化につながるものとも思っています。

◆2019年9月1日（日）

ジュニアクワイア浜松 第25回記念定期演奏会

児童合唱劇「どんぐりと山猫」（25周年記念委嘱作品 初演）

主催：浜松市・浜松教育委員会

主管：（公財）浜松市文化振興財団

会場：アクトシティ浜松 中ホール

指揮：浅野 武

演出：池山 奈都子

作詩：宮沢 賢治

作曲：新実 徳英

出演者：ジュニアクワイア浜松団員

◆2019年9月28日（土）

あいちトリエンナーレ2019舞台芸術公募プログラム

第32回オペラ公演 めいおんオペラティックコンサート

「シェイクスピア変奏曲 ～劇情の魅力～」

主催：名古屋音楽大学

共催：あいちトリエンナーレ実行委員会

会場：名古屋市芸術創造センター

指揮：後藤 龍伸

構成・演出：池山 奈都子

オーケストラ：名古屋音楽大学オペラオーケストラ

合唱：名古屋音楽大学オペラ合唱団

出演者：木下 美穂子、清水 華澄、本学学生他

同朋高校音楽科ミュージカルコース1年生～3年生

◎シェイクスピアの戯曲を基にしたオペラやミュージカル、オーケストラ、歌曲、ピアノ曲を構成し、書かれた戯曲順でプログラムを構成したコンサートで、一

日で仕込みから本番までをこなすハードなスケジュールでしたが、関係者並びに出演者の多大なるご協力のもと、無事、盛会のうちに終了できました事に、改めて感謝を申し上げます。

たくさんのコースを持つ本大学の特徴を、音楽を通して表現できた事、在学生・卒業生・教員が一つの舞台を、力を合わせて創り上げた事、在学生が多くの貴重な経験をできた事など、本当に収穫の多い、実りのあるコンサートであったと思います。また同朋高校音楽科ミュージカルコースの生徒さんも参加して下さり、高大連携の一つともなりました。

シェイクスピアを取り上げる事で日頃、学生達が演奏する機会がないオペラに触れる事で多くの学びがあったように思います。私自身も構成・選曲を考える段階でシェイクスピアの戯曲や楽曲に改めて触れる事で、学び直した事もたくさんありましたし、シェイクスピアの戯曲がどれほどの影響力や作曲家にインスピレーションを与えていたか改めて思い知らされる機会ともなりました。反省点や課題としてはスケジュールや日程の問題、練習スケジュールについてなどがあげられますが、このような機会が本大学のアピールやレベルアップにつながっていくように、今後も取り組んで行く必要性も感じました。

◆2019年11月28日（木）・29日（金）

令和元年西日本オペラ協会「コンセール・ピエール」公演
「オペラの魅力 vol.3」

主催：西日本オペラ協会「コンセール・ピエール」他

会場：あいれふホール

指揮：大川 修司

構成：演出：池山 奈都子

出演者：西日本オペラ協会会員

下記の公演は名古屋音楽大学の授業での成果を発表する公演で、出演者は本大学の在学生ですが、若さ溢れる舞台公演として記述させていただきました。

◇2019年11月29日（金）・12月1日（日）

カレッジオペラ「コジ・ファン・トゥッテ」

会場：めいおんホール

指揮：松下 雅人

演出・字幕：池山 奈都子
原語指導：森 雅史

◇2019年12月24日（火）

ミュージカル・クリスマス公演「THE AUDITION」
「コーラスライン」より

会場：めいおんホール
演出・上演台本：池山 奈都子
振付け：神戸 珠利
歌唱指導：塚田 良平

2019年度 研究活動報告

上田 仁

2019年度の研究テーマとして「アンサンブルを楽しむ事で心をリラックスさせ、演奏の機会を増やすことでフィジカルな部分を自然にトレーニングする」を掲げ、1年を通して実践を重ねた。

アンサンブルとはフランス語であり、ファッション業界では「全体として統一感をもった、異なる洋服のパーツやアクセサリーの組み合わせ」という意味になるが、本書においては「指揮者を持たない合奏」さす。

前の説明の通り、練習、つまり合わせにおいて練習を取り仕切るコンダクターが不在であるからして、演奏者自身がアイデアを出し、それぞれの意見をまとめていかなければコンサートはおろか、演奏すらままならないのである。

指揮者がいる合奏が専制国家なら、アンサンブルは民主国家に例えると分かり易い。

つまり積極的に意見を出し合うことがアンサンブルの原点であるが、理屈抜きに演奏して楽しいのがアンサンブルでもある。

オーケストラや吹奏楽などの合奏には必ず指揮者というタクトや自らの身体の動きによって、テンポや音楽表現を演奏家に指示する存在がおり、聴衆より手前に存在する指揮者の存在が演奏家にとってストレスになることがあり、指揮者に演奏を奉仕する、という考えに陥ってしまうような誤った関係にあることもある。

その点アンサンブルは聴衆と演奏者の間の垣根がなく、演奏家同士、聴衆とのコミュニケーションが円滑に行えることが多く、演奏そのものやコンサートに対する充実感を得ることが多い。

私が専門とするトランペットを始めとする金管楽器は、自らの唇を振動体にし、口輪筋を始め、顔面のありとあらゆる筋肉を駆使して演奏する。吹奏楽部は文化部ではなく体育会系だ、と言われる所以の1つはここにある。つまりアスリートである。アスリートが自分の競技で自身の力を発揮するには、知識やテクニックを学習することも大切だが、ルーティンワーク、基礎訓練など、普段のトレーニングが必要である。

金管楽器を始めて間もない子ども（時に大人）たちがつまったような音色になってしまうのは、演奏に必要な顔面の筋肉が未発達のため、唇自体に過度な力を入れて演奏しているからで、低音域より高音域の方がその傾向が強く表れるのはそのためである。

金管楽器指導の基本は「待つ」事であって、筋肉が未発達な初心者に教えすぎてしまうと、かえって上達への遠廻りをさせてしまうのである。

個人練習は本人が疲れを感じるとモチベーションが下がり、筋肉の発達を促すのに必要な練習時間を確保する事が難しく、指揮者のいる合奏では指揮者の要求によって過度や負荷がかかる事や精神の疲れによってモチベーションを保つことが困難である。

アンサンブルは演奏するメンバー全員が対等であり、演奏に際してモチベーションを落とす要因が少なく、個人練習を違い、肉体的に疲れを感じてもメンバーが演奏を続けている場合はある程度演奏を続けなければならない。この「ある程度」というのが、筋肉を鍛える絶妙な負荷なのである。

最後にアンサンブルは理屈抜きに楽しいと感じる事が多く、時間を忘れて合わせをすることが多い。

金管楽器奏者にとってアンサンブルを楽しむこと＝トレーニングをとらえ、2019年度は以下のコンサートを企画した。

2019年11月2日

ヤマハミュージック名古屋店店頭演奏

13：30～ 15：30～

名古屋音楽大学トランペット専攻生によるトランペットアンサンブルコンサート

曲目 シンフォニアをカプリス、エレジー、シテイスケイプス

2020年2月22日

ヤマハミュージック名古屋店フロアコンサート

14：00～ 16：00～

めいおん☆トランペットメイジャーズ

曲目 ヴェニスの謝肉祭、木星、ファンタジー（イウエイゼン作曲）他

2020年3月1日

飛騨市文化交流センター小ホール

上田じんとめいおん☆トランペットメイジャーズの夕べ

曲目 シンフォニアとカプリス、ファンタジー、ヴェニス of 謝肉祭他

※コロナウイルス感染拡大防止要請のため2021年3月7日に延期

2020年3月5日

電気文化会館

めいおん☆トランペットメイジャーズ誕生

曲目 シンフォニアとカプリス、木星、カクテル他

※コロナウイルス感染拡大防止要請のため2021年3月8日に延期

2019年度 演奏・研究活動報告

大岡 訓子

2019年9月3日 火曜 18:30開演 電気文化会館

「11th ピアノコンサート エクセレント」

〈プログラム〉

W.A. モーツァルト ソナタ 変ロ長調 k.281 大岡 訓子

R. シューマン 子供の情景 op.15より～ 蜂須賀 尚子

F. リスト 「Rigolettoによる演奏会用パラフレーズ」 神田 春奈

C. ドビュッシー 前奏曲第2集より「ヒースの茂る荒地、花火」 青木 文香

F. ショパン バラード第4番 へ短調 op.52 野口真由

J. ハイドン ソナタ 変ホ長調 Hob. XVI:49 濱浦 佑美

L.v. ベートーヴェン ソナタ 第17番 op.31-2 田中 麻衣

F. リスト 超絶技巧練習曲集より 第9番「回想」 田中 美穂

F. リスト ハンガリー狂詩曲 第6番 山田 那奈代

本学卒業生との演奏会を企画し、11回目を開催することができた。

出演者も毎年 構成メンバー、プログラムを考え、卒業生が集まる演奏会として、在学生にも 目標となる演奏会になっている。

私が先に演奏し、卒業生と共に演奏を勉強する機会として成功していると思っている。

自分自身には、毎年演奏することで、リサイタルプログラムにおける準備と考えておる。

個人研究費利用における研究では、毎年1月(2020年1月5日 電気文化会館)に ピアノコンサートを開催し、門下生が演奏、私自身は伴奏で演奏参加している。

指導の面での演奏内容や、プログラム構成、残響のいいホールで演奏することにより、音楽的な演奏内容で、音を残響に乗せて聴衆と一体感できる演奏を目指している。

やはり いいホールでの演奏経験は大切で、客席から聴くことによって更に内容のレベルアップ、問題点を見つけ、プラスな面を引き出す指導力をレベルアップしたいので、この企画を続けている。

2019年3月29日 金曜 18:45開演 東京 第一生命ホール
「ヤン・イラチェック・フォン・アルニン ピアノリサイタル」

〈プログラム〉

F.シューベルト 3つのピアノ曲 D946

J.ハイドン ソナタ 変イ長調 Hob. XVI:46

F.リスト バラード 第2番 ロ長調

W.A.モーツァルト ピアノ協奏曲 第12番 イ長調 k.414

ピアノ教育連盟の会員であるので、全国研究大会参加における ピアノリサイタルを聴いた。

イラチェックは音色が美しく、繊細で、特に弱音の表現の幅が広く、柔らかい音作りが特徴的であった。

モーツァルトのピアノ協奏曲は、室内楽形式で、弦楽器4名との演奏であった。

弦楽器との調和も素晴らしく、大好きな作品でもあり、大変勉強になった。

ドイツ古典からロマン派の演奏スタイルは作曲家、作品に誠実に演奏され、正統派の演奏内容に魅力を感じた。

2019年度 研究活動報告

小櫻 秀樹

MID JAPAN SOUND COMPLEX ART FESTIVAL 2020

ミッドジャパン 音の芸術祭 —どっぷり音に浸かる3日間、日本の真ん中で音泉を楽しむ—

■「ミッドジャパン音の芸術祭」とは？ 先端テクノロジーの集積地である中部地域では、テクノロジーを活用した音楽表現活動が盛んに行われています。本芸術祭では、大学を中心とした複数会場において、テクノロジーを活用した音楽表現を中心に、音による表現の多様性と可能性を追求します。長年に亘り開催されて来た「複合芸術表現ためのワークショップ」が、音による表現を追求する芸術祭「ミッドジャパン音の芸術祭」に進化します。コンサート、展示、パフォーマンス、ワークショップ等、音による多様な表現をお楽しみください。

■ 会期 2020.02.21(金)～23(日)

ENTRY FEE 入場無料

■ 会場 愛知県立芸術大学室内楽ホール、中リハーサル室、奏楽堂／名古屋音楽大学ホールDo／名古屋市立大学芸術工学部（北千種キャンパス）／アートラボあいち 主催：ミッドジャパン音の芸術祭実行委員会 共催：愛知県立芸術大学電子音楽スタジオ／名古屋音楽大学／名古屋芸術大学／名古屋市立大学芸術工学部環境デザイン研究所 後援：先端芸術音楽創作学会／日本電子音楽協会 助成：公益財団法人 愛銀教育文化財団

名古屋音楽大学公演

02.21(金) 開場：17:45 開演：18:00 於：名古屋音楽大学 ホールDo

■ 概要：生楽器演奏から、電子音響音楽まで、日本の古典舞踊を題材にした音楽から、最新の技術を駆使したハイテク音楽まで、フランス現代音楽の巨匠、アンドレ・ジョリヴェから現パリ国立高等音楽・舞踊学校院長のブルーノ・マントヴァーニまで。これらの作品に名古屋音大の現役の学生、そして今や国際的に活躍する卒業生のサクソフォン奏者、機具充希が挑みます。多彩な「音」を思う存分ご堪能ください。

■ Programme

高橋裕 (TAKAHASHI Yutaka) / 謡 仕舞による「ひふみ神歌」(1997) (英: "Hifumi God Song" with dance)

坂田直樹 (SAKATA Naoki) / Phytolith for tenor sax + electronics

寺井尚行 (TERAI Naoyuki) / 〈賑やかな過去が空間 (そら) を凌駕する時間 (とき)〉 for alto sax and technology (for alto sax and technology)

成本理香 (NARIMOTO Rica) / 987 Plates VI for four-hands

987 Plates V for Piano

Bruno Mantovani / l'incandescence de la brune for saxophone & piano

Andre Jolivet / Hopi Snake Dance for 2 Pianos

小櫻秀樹 (KOZAKURA Hideki) / MIZU for dance + electronics

石川泰昭 (ISHIKAWA Yasuaki) / おはなしコンサート「ねむりひつじマミーとやまびこカエルのクロ」

I. オープニングテーマ

II. ねむりのくしゃみ

III. 1 2 3 4 5 6 7 のあめ

IV. そらは、たくさんのかげらでいっぱい

V. おやすみのうた

ねむりひつじマミー・・・おかだ きよか

やまびこカエルのクロ・・・いしかわ やすあき

■ 演奏: Saxophone: 磯貝充希 ISOGAI Miki Piano: 岡田清花 OKADA Kiyoka / 藤本海帆 FUJIMOTO Mizuho / 石川泰昭 ISHIKAWA Yasuaki

Dance: 榊原文子 SAKAKIBARA Fumiko

仕舞: 高橋裕 TAKAHASHI Yutaka

数年前より愛知県立芸術大学では、先端テクノロジーを活用した音楽家の複合系ワークショップが行われていた。そこから発展したフェスティバルが2020年2月に行われ、実行委員としてコンサート企画、プロデュースに関わった。

この芸術祭は大学を中心とした複数の会場にて開催され、テクノロジーを活用した音楽表現を中心に、音による表現の多様性と可能性が追求された。名古屋音楽大学公演では、名古屋音大出身で国際的に活躍する磯貝充希がフランス、日本の現代音楽の作品を完璧なテクニックで演奏し、作曲者の高度な要求に、高い技量で応え聴衆を驚かせた。

またピアノ演奏家コースの岡田清花、藤本海帆が超難曲とされる André Jolivet の2台の

ピアノのための作品、Hopi Snake Danceを見事に弾きこなした。ダンスの榊原文子は私の作品、MIZU for dance + electronicsでクラシックバレエの動きを時々感じさせながらも、独自のユニークな振り付けで臨んだ。

音と音楽のワークショップ

02.23(日) 9:30-14:00 於：愛知県立芸術大学室内楽ホール

■ 概要：4名の作家によるプレゼンテーション。毎年開催されているワークショップで、「ミッドジャパン音の芸術祭」の基礎となったイベントです。複合芸術表現を中心として、音と音楽に付いての様々なプレゼンテーションを行っており、今回は「音と技」をテーマに開催します。

■ Programme:

10:20-11:05／小櫻秀樹 KOZAKURA Hideki／Dance Music Sasha Waltz & Guestsのバレエ公演と近作、2019年4月に初演されたダンス公演について

ダンス公演についての詳細：

Pacifico Exercises: Encho // Tanz/Neue Musik

ベルリン市の中心部にあるユニークな劇場にてMIZU初演された。

Sa+So/ 06.+07. April 2019/ 20h

2019.04.06-07 の2晩の公演

Beteiligte: Mariangela Tinelli, Choreographie und Tanz

Texte Ferdinand Breil, Elektronik und Komposition

Stepha Schweiger, Komposition

Hideki Kozakura, Komposition

2019年度 研究活動報告

後藤 龍伸

今年度のフェスティバルオーケストラの内容は、愛知トリエンナーレが開催された際の、めいおんオペラティックコンサート「シェイクスピア変奏曲」に参加したことにちなんでシェイクスピアの「ロメオとジュリエット」をテーマにした作品を四つ取り上げ、なおかつ学生（石黒和雅くん）からぜひ音を出して欲しい、と依頼された新作「ARENA」を初演しました。

ロメオとジュリエットの4曲は以下
 ディーリアス作曲、歌劇「村のロメオとジュリエット」より楽園への道
 プロコフィエフ作曲のバレエ「ロメオとジュリエット」より〈モンタギュー家とキャブレット家〉〈ロメオとジュリエット〉〈タイボルトの死〉
 ベルリオーズ作曲の劇的交響曲「ロメオとジュリエット」より愛の情景
 チャイコフスキー作曲の幻想的序曲「ロメオとジュリエット」
 でした。

なおアンコールとして、私自身が編曲したワーグナーの「ジークフリート」（ニーベルングの指輪第二夜）の抜粋を取り上げ、本学学生のソプラノ山崎千裕さんや本学講師のホルン安土真弓先生に参加していただきました。

研究といたしましては
 7月17日に成徳館12階でオーケストラサマーコンサートを指揮。春期の授業研究を発表。
 曲目は
 ロッシーニ作曲オペラ「ウィリアム・テル」序曲よりスイス軍の行進
 メンデルスゾーン作曲劇音楽「真夏の夜の夢」序曲
 スメタナ作曲交響詩「我が祖国」より「モルダウ」
 リムスキー・コルサコフ作曲交響組曲「シェエラザード」
 グレインジャー作曲デリー州のアイランド民謡（ロンドンデリーの歌）

9月28日に芸術総合センターで愛知トリエンナーレにおけるめいおんオペラティックコンサートを指揮。
 曲目は

メンデルスゾーン作曲劇音楽「真夏の夜の夢」序曲
グノー作曲オペラ「ロメオとジュリエット」より抜粋
ヴェルディ作曲オペラ「オテロ」より柳の歌
ヴェルディ作曲オペラ「マクベス」第1幕抜粋
ヴェルディ作曲オペラ「ファルスタッフ」よりフィナーレ

10月2日にしらかわホールで名音「オーケストラとソリストたち」を指揮。

曲目は

ドニゼッティ作曲オペラ「ルチア」より
マスネー作曲オペラ「マノン」より
シューマン作曲ピアノ協奏曲
チャイコフスキー作曲ピアノ協奏曲第1番
ラーション作曲サクソフーン協奏曲

12月10日にオーケストラ定期演奏会で芸術文化センターにて演奏補助員としてヴィオラ副首席を担当。

曲目は

ムソルグスキー作曲禿山の一夜（原典版）
チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番
ベルリオーズ作曲幻想交響曲

2019年度 演奏活動報告

佐藤 恵子

2019年9月20日（金） 16:30 開場 17:00 開演 ダイドーロボット館8階ホール

「ダイドーサロンコンサート」

〈ソロ〉

月光ソナタ	Beethoven
ノクターン（遺作）	Chopin

〈伴奏〉 橋本真介（クラリネット）

リトル・ネグロ	C. Debussy=磯崎敦博
メモリー・オブ・ユー	E. Blake=真島俊夫
チャールダーシュ	V. Monti=森田一浩
Immer kleiner	Adolf Schreiner=G.S.Howard

〈伴奏〉 上田仁（トランペット）

トランペット協奏曲・変ホ長調	J.B.G. Neruda
The Magic Trumpet	J.F. Burke
ラッパ吹きの日	L. Anderson
Neapolitan Dance	P.I. Tchaikovsky

2019年9月29日（日） 13:30 開場 14:00 開演 ハーモニーホールふくい 小ホール

「めいおん Fukui 第13回演奏会」

〈伴奏〉 橋本真介（クラリネット）

小さな黒人	C. Debussy=磯崎敦博
Memories Of You 「あなたの思い出」	E. Blake=真島俊夫
コントラバスクラリネットのための Scherzo Fantastique	A. Reed

2020年2月18日（火） 17:45 開場 18:15 開演

ザ・コンサートホール（電気文化会館）

ポリオ根絶チャリティコンサート・学友による2020年「新春コンサート」

主催国際ロータリー第2630地区ロータリー財団学友会

〈伴奏〉 小林史子（ソプラノ）

さくら横ちょう

中田喜直作曲 加藤周一作詞

お六娘

橋本國彦作曲 林柳波作詞

ソロ・伴奏と演奏し、自分の原点とも言える演奏発表ができた事は、貴重な機会でした。演奏はその場限り、会場の響き、聴衆の息づかいとともに音楽を感じる事、そして作品の持つ個性、作曲家の個性、ソリストの個性とともに技術だけでは無く、ただ演奏する喜びを感じる事の大切さを学生に伝えていきたいと思います。

2019年度 研究活動報告

清水 皇樹

私はここ数年、ピアノ指導法に頓に力を入れて研究している。

ピアノ演奏家コースが五年前に本学に新設されてから、ピアノの技術、表現法を学生達に指導することに私自身の留学経験等を通して、情熱を傾けてきた。

今年度、四年間の指導のもとに卒業する演奏家コースの学生達の卒業リサイタルなどの演奏ぶりを聴いて、私なりの達成感は感じられるようになっている。

将来、本学卒業生として誇れるような演奏家に育てる事ももちろんだが、やはり、立派なピアノ指導者として育てる事も同時に大切だと常々考えている。

フランスや、ドイツ、ロシアやアメリカ等、優れたピアニストが沢山誕生している国々では、沢山の優れた指導者が存在する。

最近では、中国、韓国から優れた演奏家が数多く誕生しているが、そこには名だたる素晴らしい指導者が必ずいるのだ。

そこで私は、優れた指導者になるためには大学の授業の中で「ピアノ指導法」を学べる事が非常に大切であると思う。

この「ピアノ指導法」をいかに充実したカリキュラムにすることが、他大学との差別化を図り、本学をアピール出来る重要なことの一つだと考えている。

私は、この週に一回の「ピアノ指導法」の授業を「西洋音楽史」の授業と共に、力を入れ、リンクもさせている。

優れた演奏家になるためには、長い時間をかけて鍛錬する必要があるように、優れた指導者になるためにも、きちんと系統だった指導法を学ぶ必要がある。

学生の中には、ピアニストになれなかったら、ピアノの先生になればいいや…のような安易な発想する者も多い。実際何も指導法を学ばず、実際のレッスン経験も持たず卒業し、いきなり音楽教室でレッスン、指導する学生が何と多いことか。

本学を卒業した学生達が、ピアノ指導者に直ぐになったとしても、迷わず、確信を持ってレッスン出来るような先生になって欲しい。そして名古屋音楽大学卒業の先生は素晴らしい

しい、と言ってもらえるようになって欲しいのだ。

そうした中で、私自身も常により良い指導法を研究する必要がある。

そこで、私は一年に一回、指導法研究の成果を発表する場として、コンサートホールを利用した門下生演奏会を開催している。

今回は12月24日、三井住友海上しらかわホールを使って開催した。

演奏する生徒達は、小学校四年生から大学院二年生まで、総勢41名の演奏会となった。

大学を卒業して直ぐに、高校生や大学生を教える訳ではない。やはり、小学校低学年くらいから指導が出来る先生にならないといけない。

そしてこの、初歩の段階の指導こそが大切であり、またとてつもなく難しいのだ。

私は実際に小学生の生徒達を指導しながら、そこで感じ、悩み、また学んだことを直ぐに、ピアノ指導法の授業の中で具体的な例を挙げて学生達に指導することが出来る。

それは大変、有意義なことだ。

指導することは、自分が試されることであり、また自分自身も学ぶことである。

これは、常に学生達に伝えていることである。

子供達をより良い方向に導くためには、指導者自身が技術だけでなく、西洋音楽史の知識も知らなくてはならないし、ソルフェージュ、和声の能力もなければ指導出来ないということを実感するはずだ。

あらゆる芸術に精通し、指導者自身が豊かな想像力を持ち、また人の心を理解出来る人間力も必要だということを、授業の終わりには皆、感じている。

私は授業の後半には、学生達に模擬授業、レッスンをさせ、いかにレッスンを充実したものにさせる大変さを経験させているつもりだ。

レッスンをした学生に必ず振り返りさせて感想を述べさせる。生徒役の学生にも考えさせる。

そして、他の聴講する学生達にも一人一人、その模擬レッスンの良かったところ、改善すべき課題を述べさせる。

そうすると、いかに指導する大変さを実感すると共に、いかに素晴らしい、やりがいのある仕事だということを最終的に理解してもらえるようになるのだ。

門下生演奏会に戻るが、一年を通して指導して来た事がどれだけ舞台上で発揮できているかを聴くのが私の研究成果なのである。

毎回毎回、私なりの成果を感じると同時に、指導法としての課題も沢山感じられる絶好

の機会なのである。

それが、次の年度の「ピアノ指導法」の授業に、私の経験として活かせることに喜びを感じている。

引き続き、この研究を重ねることによって、本学の教育に役立てていきたいと考えている。

2019年度 演奏活動報告

高藤 摩紀

2019年度に行った演奏活動のうち主だったものを報告いたします。

- 2019年4月1日 東本願寺 御影堂
親鸞聖人御誕生会音楽法要
演奏曲目 松下眞一作曲 音楽法要 (ティンパニ)
- 2019年8月17日 飛騨市文化交流センター
「めいおんミュージックキャンプ in 飛騨」
John Psathas 作曲 “Kyoto”
Manu DeLago 作曲 “If you are trly right, it will be proved by the light”
- 2019年9月1日 日進市民会館大ホール
「ジェゴグ コンサート」
“バレ ガンジュール”
“トゥルン トゥガン”
“マカプン”
“ゴパラ”
- 2019年9月16日 名古屋音楽大学 成徳館12階ホール
「イ・クトゥ・スウェントラ師 追悼コンサート」
共演 I Gede Oka Artha Negara
“プトゥリ バンブー”
Ricardo Gallardo 作曲 “Renaissance Jegog Dance”
M.Ravel 作曲 “Borelo” 他
- 2019年10月20日 東京・豊洲シビックホール
「日本木琴協会全国大会」
Héctor Infanzón 作曲 “El Devenir de la Noche”

- 2019年11月16日 リリオ コンサートホール
 「リリオ×名古屋音楽大学打楽器コース 打楽器っておもしろい!!」
 Héctor Infanzón作曲 “El Devenir de la Noche”
 C. Saint-Saens作曲 “動物の謝肉祭” 他
- 2019年12月8日 名古屋音楽大学 博聞館4階 めいおんホール
 「東京音楽大学 ジャワガムラン オーケストラ
 名古屋音楽大学 スカルサクラ ジョイントコンサート」
 Lou Harrion作曲 “Threnody for Carlos Chavez”
 “バレ ガンジュール”
 “トゥルントゥガン”
 “マカプン”
 “ゴパラ”
 M. Ravel作曲 “Borelo”
- 2020年2月23日 名古屋音楽大学 成徳館12階ホール
 「第18回名古屋音楽大学打楽器アンサンブル定期演奏会
 打・カーポ」
 Emmanuel Séjourné作曲 “GOTAN Concerto”
 (ヴィブラフォン独奏)

今年度は、昨年亡くなられた、ガムランの恩師のイ・クトゥ・スウェントラ先生の追悼演奏会を、後継者で先生のご長男を招聘し開催した。また、東京音楽大学ジャワガムランオーケストラとの共演を機に、大学所蔵のジャワガムランでLou Harrison作曲 “Thredody for Carlos Chavez” に取り組んだことは、大きな収穫だった。その他の演奏会では、学生たちと共に演奏する機会が多かった。

5月に母校の英国王立音楽院より、ARAMの称号を受けた。称号授与式に出席、マスタークラスを行うために、英国王立音楽院に赴いた。

2019年度 演奏・研究活動報告

露木 薫

① 名古屋音楽大学 第19回めいおん新春コンサート

室内楽・アンサンブルの夕べ

形態：金管室内楽

日時：2019年1月5日（土） 16：00開演

場所：名古屋音楽大学めいおんホール

出演：Cor.井上圭 Trp.藤島謙治、水越結莉 Hr.伊藤亜衣

Trb.河原有希 Eup.露木薫

曲目：金管6重奏曲 変ホ短調 op.30（オスカー・ベーム）

成果：大学主催の室内楽・アンサンブルの演奏会の中で、教員を交えたメンバーによる金管室内楽のオリジナル作品の演奏を行った。学生達に取り組んで欲しい作品の一つを自らの演奏で示すことが出来た。

② ウィルソンフェスティバル2019

形態：ユーフォニアム・アンサンブル

日時：2019年1月18日（金） 18：00開演

場所：浜離宮朝日ホール

出演：ブライアン・ボーマン（スペシャルゲスト）、露木薫、仲田歩、岩黒綾乃、山崎由貴、他、計49名のユーフォニアム奏者

曲目：『魔笛』序曲（W.A.モーツァルト）

ファンタジー・オリジナーレ（ピッチ）

ユーフォニアムドリーム（G.ロバートソン）

ボール・オブ・ファイヤー（P.スモーリー）他

成果：世界最高峰ユーフォニアム奏者であるブライアン・ボーマン氏と日本のプロ奏者49名が一堂に会して演奏会を行うことで、ユーフォニアムによるアンサンブルの可能性を示すことが出来た。

③ マスターズ・ブラス・ナゴヤ 第4回定期演奏会

～トラップ一家のその後～

形態：吹奏楽

日時：2019年4月28日（日） 15：30開演

場所：愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮：鈴木竜哉

曲目：サウンド・オブ・ミュージック（R.ロジャース 作曲／長生淳 編曲）

アルプス交響曲 作品64（R.シュトラウス 作曲／石毛里佳 編曲 鈴木竜哉 加筆）

成果：東海地区のオーケストラ奏者、音楽大学の講師、フリーランス奏者の力を結集し、吹奏楽の伝統と革新を追求し、クラシックファンの裾野を広げることが出来た。

④ ウィンドアンサンブル・ガヤ

形態：吹奏楽

日時：2019年6月19日（水） 18：45開演

場所：愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮：川瀬賢太郎

曲目：戴冠式行進曲『王冠』（W.ウォルトン）

第2組曲（G.ホルスト）

ドラゴンの年（P.スパーク）

組曲『惑星』より火星・木星（G.ホルスト）

宇宙の音楽（P.スパーク）

成果：東海地区のオーケストラ奏者、音楽大学の講師による吹奏楽の演奏会を通して、音楽の魅力を広く示し、東海地区の文化振興の一助となった。

⑤ ジ・アンサンブル・クラリネッツ演奏会

魅惑の星☆ユーフォニアム

形態：ゲスト演奏

日時：2019年6月23日（日） 14：00開演

場所：大垣市スイトピアセンター音楽堂

出演：Cl.朝田健、朝田文子、深尾早苗、古川紗永、他、計16名

Eup.露木薫

曲目：第2組曲 へ長調 作品28bより『マーチ』（G.ホルスト）

パントマイム（P.スパーク）

楽劇『タンホイザー』より『夕星の歌』（R.ワーグナー）

エストレリータ（M.ボンセ）

成果：クラリネットとユーフォニアムのアンサンブルを通して、お互いの楽器の特性・可能性の理解向上につながり、楽器の違いを超えた音楽づくりを体験する事が出来た。

⑥ 岐阜ジュニア吹奏楽団 第38回定期演奏会

形態：ゲスト出演

日時：2019年8月24日（土） 14：00開演

場所：OKBふれあい会館 サラマンカホール

出演：Eup. 露木薫・仲田歩、Piano：塚本梨月

曲目：海に開く窓（千秋次郎）

サイド・パートナー（ハーバート・クラーク）

音楽の夜会より 1. ヴェネツィアの競艇 2. 魚釣り（ジョアッキーノ・ロッシーニ）

2パート・インベンション（フィリップ・スパーク）

成果：ユーフォニアム2本とピアノという形態でのレーパートリーの拡大につながった。アメリカの古い楽器を使った演奏を取り入れることで、ユーフォニアムという楽器の変遷についての研究の一端ともなった。

⑦ Meion British Brass レコーディング

形態：サークルで研究活動している金管バンドの形態による、ティータ出版社金管バンドコンクール自由曲ライブラリーのCD制作のための収録

日時：2019年11月9日（土）～ 10日（日）

場所：名古屋音楽大学 12階ホール

出演：露木薫（指揮）高藤摩紀、窪田建志、黒田知良、三宅秀幸、鈴木豊大、長村晃一
Meion British Brass

曲目：麦畑渡る風の詩（堀田庸元） 彼方より4つの印象（石原勇太郎）

シンプルギフト・ファンタジー（阿部勇一） 苗色の海（宇田川不二夫）

バトンタッチ！（田嶋勉） スプリング・シティー3月のある日（下田和輝）

いくやまかわ（足立正） 晴、風（上岡洋一） Glorious Memory（岩村雄太）

「ライオンキング」よりサークル・オブ・ライフ、愛を感じて、

王様になるのが待ちきれない、ハクナ・マタタ（エルトンジョン／小泉貴久編曲）

テキーラ（チャック・リオ／石原勇太郎編曲）

成果：WAKOレコード社より、金管バンドコンクール自由曲ライブラリーVol. 11「金管バンドで謡う」として発売された。打楽器パートでは専任教員・非常勤教員にも賛助演奏の協力を頂いた。

研究報告 露木 薫

『Willie's Custom Brass社のU3』シリーズについて

Willie's社から新たに開発されたU3シリーズとは、Ultimate（究極の）Universal（自由自在な）Utility（扱いやすい）の頭文字を取った日本国内のプロ・トロンボーン奏者の監修によるマウスピースで、特に東洋人の唇の特性を生かせるデザインである事が最大の特徴である。これまではどうしても海外の著名なプレイヤーの要望に合わせたデザインが主流で、唇や体格・骨格などの条件に差異があっても、設計の際に考慮される事が無かったのではないかと思われる。この度のU3シリーズで新設計となったUカップの形状が、日本人のユーフォニアムの音色や演奏にどのような変化を与えるか検証することを目的に4つのU3シリーズのマウスピースを購入した。①STEINER5D ②KURATA5M ③TAMAKI4.5M ④HAKOYAMA4D、その他に、ユーフォニアムで比較的良い結果を出しているAPOLLOシリーズ（595VDJ）も購入し、試用している。ほぼ全員の門下生にU3シリーズの4本の試用を行ったところ、STEINER5Dでは2名、②KURATA5Mでは1名の学生が早速U3シリーズに替えて、特に音色面で劇的とも言える変化が感じられ、コンクール、試験や演奏会本番などで演奏効果の向上につながっていると思われる。今後もユーフォニアム奏者の為のU3シリーズの誕生につながる様、日本人の身体的特性に合ったマウスピースの研究を続けて行きたい。

2019年度 演奏・研究活動報告

中川 朋子

2019年7月15日（月・祝） 会場：新庄市民文化会館 小ホール

第20回山形県ジュニアピアノコンクール最上地区予選の審査員を務めた

主催：山形県ジュニアピアノコンクール実行委員会

後援：山形県・山形県教育委員会、山形新聞、山形放送

審査委員長 中野孝紀氏

審査員 浅野純子氏、植木由利子氏、佐藤博幸氏、渋谷るり子氏、鈴木美奈子氏、田中美千子氏、田原さえ氏、中川賢一氏、松本裕子氏、松山裕美子氏、中川朋子

上記審査員により予選は2名以上、本選は3名以上で審査。

6地区の予選を経て、8月31日、9月1日に山形県中央公民館ホールにて本選が開催された。私は、日程の都合上、今年は佐藤博幸氏と最上地区予選を担当した。

初級A・小学4年まで（26名）、初級B・小学6年まで（26名）、中級A・学年齢制限なし（12名）、中級B・学年齢制限なし（6名）の参加者。

それぞれ熱心に取り組み、日頃の努力が伺えた。演奏の基礎は重要ではあるが、技術面ばかりにとられる事なく、表現の楽しさを感じながら演奏出来る事が理想で、この事は、どのコンクールにも当てはまる課題であると思う。

2019年10月27日（日） 開演：15時 場所：愛知県芸術劇場コンサートホール

愛知県医師会交響楽団第38回定期演奏会

指揮：和田一樹氏 ピアノ：中川朋子

プログラム

F. リスト：交響詩「前奏曲」S. 97

P. チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23

J. ブラームス：交響曲第4番 ホ短調 作品98

愛知県医師会交響楽団は設立されて40年近くの歴史を重ねているアマチュア楽団で、年1度の定期演奏会が、団員の皆様の音楽に対する熱意と努力によって今日まで継続して行われている。

この度の第38回定期演奏会で、和田一樹氏の指揮のもと、私は「チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番」を演奏させて頂いた。

今回の第38回定期演奏会は愛知県肢体不自由児・者父母の会へのチャリティーコンサートでもあった。当日は、約1200名のお客様を愛知県芸術劇場コンサートホールにお迎えして大盛況の中、開催された。

数々の巨匠達の名演によっても知られる、この「チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番」は、ピアニストにとって演奏してみたい憧れの一曲でもある。

緊張の中、迎えた本番。オーケストラ団員の皆様の音楽に対する情熱と温かい空気に包まれ、私は幸せを感じながらも集中して演奏させて頂く事が出来た。

アンコールではピアノソロで、チャイコフスキーの「四季」より10月〈秋の歌〉を演奏させて頂き、おかげ様で、こちらもお客様に大変好評を頂けた。

この度の最良の機会を下さり、コンサートの開催にご尽力を頂いた関係者の皆様に、改めてこの報告書においても、心からの感謝と共にお礼を申し述べたい。

2019年12月10日（火） 開演：18時30分 場所：愛知県芸術劇場コンサートホール
名古屋音楽大学 第43回オーケストラ定期演奏会
指揮：松本宗利音氏 ピアノ：中川朋子

プログラム

- M. ムソルグスキー：交響詩〈はげ山の一夜〉（原典版）
- P. チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 作品23
- H. ベルリオーズ：幻想交響曲

10月27日に次いで、同じ愛知県芸術劇場コンサートホールにて、再度、「チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番」を演奏させて頂いた。

今回は、松本宗利音氏の指揮による本大学オーケストラの定期演奏会。

この定期演奏会は、本大学の学生団員の日頃の学習の成果を発表する大学行事である為、教員の私としては楽しみと同時に、責任を果たさなければと緊張感も抱いていた。

コンサートの成功を願いながら出来る限りの努力を重ね、当日を迎えた。

おかげ様で、ネットからも多くのお申し込みを頂き、約1100名ものお客様がご来場下さり、団員一同、感激と共に舞台に臨んだ。

この「チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番」についてエピソードが多々記されている。1874年のクリスマスイヴにチャイコフスキーが、新作のこの曲をモスクワ音楽院院長（ピアニスト・作曲家）で実力者ニコライ・ルビンシテインに披露した時「形式を無視している」「民族色が強すぎる」などと批難された。チャイコフスキーはこの作品をルビンシテインに捧げ、初演を依頼するつもりであった。しかし酷評を受け、失意の中、ドイツの名ピアニストであるハンス・フォン・ビューローに献呈したと言う経緯は広く知られている。

ビューローはボストンでこの作品を初演し、大成功を収めた。

以来、この作品は「独創的な傑作」として絶賛される事となった。当初酷評したルビンシテインはもちろん、世界的にその価値が認められ、チャイコフスキーの「ピアノ協奏曲第1番」は不朽の名作として今も愛されている。

今回、この作品と真摯に向き合い、独創性や、民族色を改めて再認識し、「チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番」の奥深い素晴らしさを体感、実感する事が出来た。

第1楽章の壮大なロシア平原を想わせる堂々とした和音の響き、第3楽章のウクライナ民族舞踊風の主題はフィナーレに向かって高揚感を掻き立てられる。全楽章に満ち亘る絢爛豪華さは、もちろん魅力的ではあるが、私自身は、中でも第2楽章冒頭の情緒あふれる旋律や、作品全体のそこここに散りばめられた憂いを帯び、染み入る様な甘美なメロディーに、この上ない魅力を感じている。

おかげ様で、第43回オーケストラ定期演奏会は成功裡に終わり、大学行事にご理解、ご支援下さった皆様に深く感謝している。

チャイコフスキーの傑作「ピアノ協奏曲第1番」を1か月余りの間に2度も演奏させて頂いた事は大変有難く幸運であり、今回の貴重な経験を糧として、今後も更に研鑽に励んで参りたい。

2019年度 演奏活動報告

橋本 眞介

2019年9月13日（金）に開催された広島交響楽団第393回定期演奏会（指揮：下野竜也）において矢代昭雄の交響曲をバスクラリネット奏者として演奏した。

この曲は演奏されることが少なく私自身も演奏するのも初めてであった。邦人作曲家の交響曲としてもトップクラスの名曲だと思われ、会場には日本中から邦人ファンで埋め尽くされた。この曲は、日本フィルハーモニー交響楽団が日本の作曲家に対する作品委嘱シリーズの第1作として、1956年にパリ留学を終えて帰国した矢代秋雄に委嘱した作品である。

スコアの冒頭には「日本フィルのために」と記されると共に「大原総一郎氏に捧げる」との献辞がある。1958年1月から5月にかけて書かれ、同年6月9日に日本フィルハーモニー交響楽団第9回定期演奏会において、渡邊暁雄の指揮によって初演された。

全体の特徴としては、作曲者が心酔していたというセザール・フランクの交響曲で使われた循環主題がこの作品でも使われていることがあげられる。

寡作家の矢代秋雄としては、異例なほど速いペースで作曲が行われたが、それについて作曲者は「遅筆の僕としては大変な強行軍だったが、ここ数年来、交響曲を書く心の準備が十分出来ているような気がしていたので、敢えて強行軍とした」と語っている。

第1楽章 Prélude: Adagio-Moderato

冒頭のAdagioの部分はパリ留学時代に書きかけてそのままとなったオスカー・ワイルドの戯曲「サロメ」のための序曲を転用していると言われている。Moderatoの主部に入ると、全曲の統一動機であるH-F-Fisの3音からなるがトロンボーンとチューバによって、更に弱音器をつけたホルンとトランペット、ハープと低弦によって三度提示される。対応するクラリネットの三度の重奏による動機とともに展開し、クライマックスに達するとシンバルの一撃によって再び冒頭のAdagioが戻ってくるが、更に盛り上がったのちに、頂点で和声的な第3動機が提示される。再びModeratoで第1動機、第2動機が提示され、Adagioになって静かに終わる。

第2楽章 Scherzo:Vivace

三部形式のスケルツォ。この楽章は初演の時から大変話題となった。1950年頃に朝日新聞に獅子文六の「自由学校」という小説が連載され、人気をとる。そしてその小説は映画化されたのだが、その中で出てくる神楽の太鼓のシーンでの独特なリズムに惹かれた作曲

者は、その音型から発展させた、「テンヤ、テンヤ、テンテンヤ、テンヤ」(6/8+(2/8+6/8))というリズム形を全曲にわたって用いた。ただし、小説『自由学校』に、矢代が用いたりリズム形と同じものは登場しない。小説に数回登場するリズム形は最初の『テンテンテンヤ、テンテンヤ、スケテンテン、イヤ、ドドン』という形をはじめ、いずれもこの楽章の基本リズム形とは異なっている。

第3楽章 Lento

2つの主題による5つの自由な変奏曲。作曲者は「部分的にはバッハ以前のコーラル変奏曲の形式をとったところがある」と言っているが、各変奏の切れ目はなく、連続して演奏される。主題の随所に第1楽章第1動機のもつ増4度音程がみられる。第4変奏では第1楽章の第2主題の動機が再現されている。

第4楽章 Adagio-Allegro energico

典型的な序奏とソナタ・アレグロ形式で書かれている。序奏部分は冒頭で出てきた第1動機がコントラファゴットとバスクラリネットによって提示され、続いてこの楽章の第2主題、そして第1主題と序奏のゆったりとしたテンポのなかで姿を現す。このテーマも音程的に1楽章で出てきた統一動機の音程的特徴を備える。

Allegroに入り、典型的なソナタ形式でしっかりと構成された音楽は、活気に満ち、瑞々しい魅力を今も保っている。フガートを多用した展開部、F#音のペダルトーンを経て再現部になだれ込み、いったんはクライマックスを迎えるが、1楽章の和声的な第3動機が高らかに奏され、Prestissimoのコーダで断ち切るように全曲を終わる。

矢代秋雄自身は若い時期に亡くなりこの交響曲、ピアノ協奏曲、交響的作品は彼の作品として有名であるが生涯の作品リストも極めて少なく管弦楽曲は10曲程度である。

しかし矢代氏はこの交響曲一曲だけでも後世に素晴らしい名曲を残し、後の作曲家や演奏家に大きな影響を与えたと言えよう。

また1980年～2000年の間、吹奏楽の世界に矢代昭雄ブームが広がり吹奏楽コンクールでは時間制限もあり4楽章のみ自由曲で取り上げられることになるが、彼の作品は多くの中学・高校・大学生と若い演奏家にも広く知れ渡ることとなる。

尚、このコンサートの模様は9月29日(日)NHK-FM「広響コンサート」としてラジオ放送された。

広島交響楽団第393回定期演奏会 指揮：下野竜也 ピアノ：清水和音

【曲目】〈日本・ポーランド国交樹立100周年〉

ショパン：ピアノ協奏曲第1番ホ短調 矢代秋雄：交響曲

2019年度 演奏・研究活動報告

松下 雅人

○4重唱とソロを楽しむアフタヌーンコンサート

日時：2019年3月17日（水） 開演14:30

会場：ヤマハ名古屋ホール

出演者：松下雅人（バス）、酒井和音（ソプラノ）、
鬼頭愛（ソプラノ）、古屋彰久（テノール）沢崎央子（ピアノ）

◎ソロ・五月の夜 ヨハネス・ブラームス

◎アンサンブル

- | | |
|-------------------------|-------------|
| ・ダニーボーイ | ボブ・チルコット |
| ・手を打ち鳴らせ | ジョン・ラター |
| ・永遠の花 | ジョン・ラター |
| ・聖者の行進 | ジョン・ラター |
| ・さくら | 武満 徹 |
| ・○と△のうた | 武満 徹 |
| ・ジプシーの歌 | ヨハネス・ブラームス |
| ・オペラ「リゴレット」より“美しい恋の乙女よ” | ジュゼッペ・ヴェルディ |

○【芸創コラボ】名古屋市芸術創造センター連携企画公演 名古屋二期会・芸創オペラ

W.A.モーツァルト作曲 歌劇「フィガロの結婚」（原語上演・日本語字幕付）

日時：2019年3月2日（土） 開演17:30, 3月3日（日） 開演16:30

会場：名古屋市芸術創造センター

小崎雅弘（指揮）、唐谷裕子（演出）

オーケストラ：中部フィルハーモニー交響楽団

出演者：松下雅人、大倉一将、加藤由理子、馬場里美、守屋貴美子他

配役：バルトロ（全幕）

○第47期コンセルヴァトリーオ名古屋二期会バーゼコース修了オペラ公演

W.A.モーツァルト作曲 歌劇「フィガロの結婚」（原語上演・日本語字幕付）

日時：2019年4月4, 6, 7日 全3公演

会場：名古屋市東文化小劇場

管弦楽：愛知室内オーケストラ

合唱指導：荻野砂和子、松下雅人

主催：サラマンカホール

サラマンカホール関係者とともにアウトリーチ活動に関わり、県民合唱団員公募についての仕組みまた、県民合唱団が公演に向けての活動「公開合唱練習～歌いやすいドイツ語の発声」と題し練習の様子が新聞、テレビで取り上げられる。

審査

○カワイうたのコンクール

2019年5月19日（日） 電気文化会館ホール

○NHK全国学校音楽コンクール愛知尾張地区

2019年7月2日 江南市民文化会館

○NHK全国学校音楽コンクール福井県大会

2019年8/7, 8日 ハーモニーホールふくい

○英語歌唱コンクール

2019年12月22日 西尾市民文化会館

○大阪教育大学附属高校平野校舎芸術鑑賞会

「プリマクラッセオペラスターズ」公演

日時：2019年6月7日

会場：クレオ大阪南

出演：酒井和音、鬼頭愛、古屋彰久、大倉一将、福井悠大

黒田和良（名古屋音楽大学非常勤講師）とともに制作に関わる。

今年度は演奏活動以外にも公演プロデュースの実践、各種コンクールの審査、加えてアウトリーチも含めた活動ができ教育面のみならず広く音楽文化の普及に寄与できたと考えている。

演奏、教育、プロデュースの三本柱の活動を軸とし音楽を通しての社会貢献を引き続き次年度以降も目指す。

2019年度 演奏・研究活動報告

森 雅史

- ・ 2月22日 木下美穂子先生による学科公開講座
- ・ 2月24日 Faure作曲 Requiem バス・ソロ 指揮：山神健志、会場：秋川キララホール（東京）
- ・ 3月10日 Bach作曲 Johannes passion バス・ソロ（イエス） 指揮：永井宏、紀尾井ホール（東京）
- ・ 4月4日 Mozart作曲 Le nozze di Figaro フィガロ役 指揮：佐藤正治、演出：岩田達宗、名古屋市東文化小劇場
- ・ 4月6日 Mozart作曲 Le nozze di Figaro フィガロ役 指揮：佐藤正治、演出：岩田達宗、名古屋市東文化小劇場
- ・ 4月7日 Mozart作曲 Le nozze di Figaro フィガロ役 指揮：佐藤正治、演出：岩田達宗、名古屋市東文化小劇場
- ・ 4月29日 金澤風と緑の楽都音楽祭 オープニングコンサート（オペラアリア・重唱等）
指揮：ユベール・スターン。オーケストラアンサンブル金沢、音楽堂コンサートホール
- ・ 5月3日 金澤風と緑の楽都音楽祭 ANAホテル金沢 オペラアリアコンサート
- ・ 7月20日 名古屋学院サマーコンサート リサイタル オペラアリア等 名古屋学院・クライン・メモリアル・チャペル
- ・ 6月15日 ボローニャ歌劇場 Verdi作曲 Rigoletto 観劇・Desiree Rancatore 女史と対談
- ・ 7月15日 木下美穂子客員准教授 学科公開講座
- ・ 9月28日 めいおんオペラティックコンサート “シェイクスピア変奏曲” 出演
- ・ 10月5日 アンサンブル・ノマド第67回定期演奏会 藤倉大作曲 歌曲集“世界へあてた私の手紙”
- ・ 11月1日 グランド・オペラ共同制作『カルメン』観劇
- ・ 11月3日～11月16日 科研費採択に伴う海外研修
- ・ 12月22日 第九ソロ 富山県オーバードホール 指揮：円光寺雅彦 東京交響楽団

【総括】

まず、専門がオペラである私にとって、今年度は大学業務との兼ね合いからオペラの舞台への出演を数本辞退しなければならない1年となった。リハーサル期間の短い宗教曲や

準備の容易なりサイトルなどの演奏活動を主軸に研究を重ねた1年となったが、科研費を伴う研究課題に関する実地研修ならびに舞台出演が叶わなかったことは残念である。

特筆すべき演奏活動としては、紀尾井ホール（東京）で行われたヨハネ受難曲では、大学時代の恩師である永井宏氏のタクトのもと質の高い演奏に携わることが出来た。また、金沢における音楽祭において、著名な指揮者である指揮者ユベール・スターン氏と充実したりハーサルならびに本番での演奏が出来たことが挙げられる。

大学主催公演である、『めいおんオペラティック・コンサート』では、管・弦・打楽器コースの協力をいただき、舞踊演劇ミュージカルコースとシェイクスピア原作の舞台作品をオムニバス形式で演奏した。企画構想から携わり自身も出演をしたが、ソリストである木下美穂子客員准教授、清水華澄客員准教授、伊藤晴非常勤講師といった日本の誇る歌手たちが学生たちと共演を快諾いただき、貴重かつ大変レベルの高い演奏を繰り広げた。本公演に際し、大幸財団からも助成を獲得し、学内において、名古屋音楽大学舞台芸術作品研究会を発足させたと同時に、この研究会を軸に今後も様々な公演、研究の実現を図っていく所存である。

またかつて所属していたボローニャ歌劇所引越し公演では、終演後に主役を歌ったデジレ・ランカトーレ女史やセルソ・アルベロ氏と科研費採択研究課題について、非常に貴重な意見の交換をすることが出来た。11月には、パリ、フィレンツェ、ボローニャと今年度も引き続き海外研修に渡欧した。音楽史上最も重要な歴史ある研究機関であるボローニャ・アカデミア・フィラルモニカでは、モーツァルトの修了免状に関する直筆譜であるとか、ロッシーニ、パイズィエツロのオペラ直筆譜、現在修復・確認中の修了試験解答用紙などを特別に図書室や書庫に入れてもらい、研究員から丁寧な説明を受けた。ヨーロッパにおける楽譜出版社や音楽文献出版社が閉店をしていく中で、パリとフィレンツェの古書店では、オペラ史に関する1800年代の文献から1900年代初頭のものまで貴重な文献を入手することが出来た。購入した文献は随時読み進めており、知り得た内容は、主に大学院における特殊研究の授業や個人レッスンに還元をしている。また、ボローニャ歌劇場ではオペラ『フィデリオ』を、パリオペラ座では『ドン・カルロ』などを観劇し、ヨーロッパにおける最先端のオペラ舞台芸術の舞台を実際に体感することが出来た。

科研費を伴う研究は、来年度まで持ち越し引き続き継続して行う予定であり、新しい展開を繰り広げられたらと考えている。